長野県短期大学紀要　第65号　2010年12月
Journal of Nagano Prefectural College, No. 65, December 2010

長野県短期大学
〒380-8525 長野市三輪 8-49-7

河北省の国有牧場
The National Stock Farm in Hebei Province

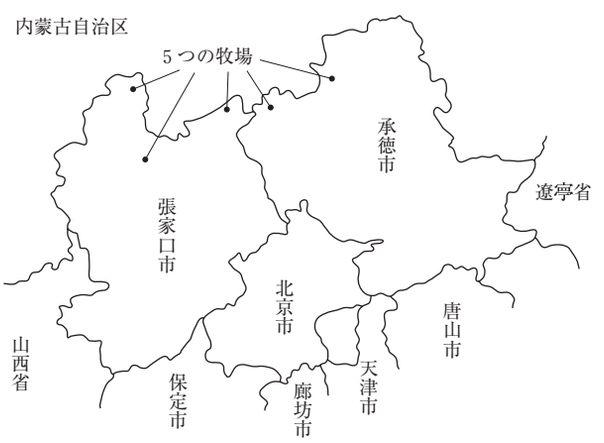
立石　昌広　TATEISHI MASAHIRO

本稿は拙論「中国国営農場史研究」(2008)、「河北省の国有農場」(2009) につづく中国国有農場研究の続編である。さきの論稿では中国国営農場の歴史をふまえて現代の国有農場改革の状況を描こうとし、河北省の事例をとりあげた。対象は沿海部と内陸部の農場であった。今回、北部の牧場調査を加えることで河北省農場全体の調査を完結する。

本稿でとりあげた河北省国有農場（牧場）は大都市近くに位置し、農場改革が積極的に推進され、総じて経済発展も急速である。地図1に見るように牧場は内蒙古の草原に連なり、放牧に適しているほか、北京や天津の大都市に近い位置にある。牧場は地方の行政組織に編成変えされる過程にあり、改革は急速に進められ、基本的に成功を収めている。

この4年間、筆者は現地調査を続けてきた。その変化は劇的で、改革途上ということで政策の変化と実態の変化になお錯綜した状況がみられる。今回の牧場は河北農場が中国農場改革全体の推移を理解する好例でもあることが実感できる。

地図1　河北省北部



第一章　概観

河北省には全体で30個の国営農場が存在した。先の拙論において河北省全体の農場を3グループに分類し、沿海地域の8農場、内陸部の15農場、5つの牧場、そして会社1つ、研究所1つの計30と分類した。今回は先に調査対象からはずしていた牧場が対象である。

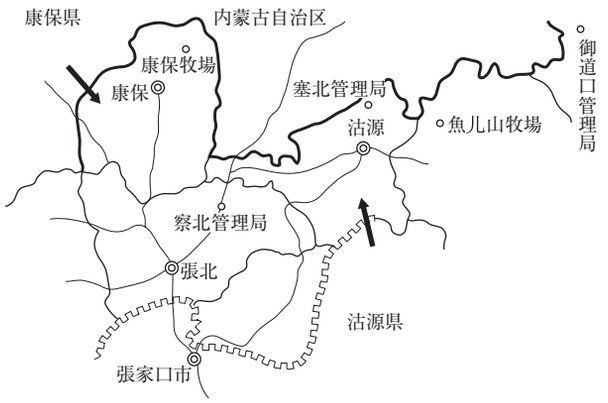
5つの牧場は北の内蒙古自治州と河北省との境界にひろがっている。ここはモンゴルに続く草原地帯の南端に位置する。自然環境は内蒙古と共通し、やや高原に位置し、なだらかな丘陵が続く。地図でその面積の大きさを知ることができるが、耕作用地、工業用地や住宅用地として使われていたり、環境保善や砂漠化を阻止するための牧草地や林であったり、休耕地などに使われ、今後も牧場用地以外の耕作地や工場用地として使われる可能性が大である。自然環境保護のための休耕地や植林が行われているので草原や放牧地の分布を詳細に描くことは今回の調査ではできなかった。大凡の面積分布を把握することは可能である。

実際の現地調査は張家口市の行政管轄内にある3つの牧場で行った。張家口市全体の人口は457万人、面積は3683平方キロ、北京の北、万里の長城南側に張家口の市街があり、市轄人口89万人の大都市で、その面積は845平方キロ。そこから長城を北に超えたところが張北県である。人口38万人、面積423平方キロ。平均海抜1400メートルの草原で、元代の中都遺跡がある。県の北の端にかつての国有牧場、現在名察北管理局がある。そのさらに北には九連城鎮があり、この町は沽源管理局に属するため、張北県（察北管理局）は内蒙古には接していない。沽源県は人口23万人、面積360平方キロ。かつての牧場は塞北管理局となり、北と東側が内蒙古との境に位置し、張北県の北には康保県がある。その人口は28万人、面積は337平方キロ。東北の内蒙古との境にむけてなだらかな丘陵がつづく。康保牧場はそのさらに東北に位置する。

張家口市の東に承徳市がある。人口367万人、面積3952平方キロ、市轄人口52万人、その面積は709平方キロ。牧場は沽源県の東、同じく内蒙古の境に位置する豊寧満族自治県（人口39万人、878平方キロ）に内蒙古に接して魚儿山牧場がある。その隣の囲場満族蒙古族自治県（人口53万、面積906平方キロ）に御道口牧場がある。

所属
多文化コミュニケーション学科国際地域文化専攻　教授

地図 2　張家口市と承徳市の 5 つの牧場の位置



第二章　牧場の諸相

第一節　牧場の位置と規模

5 つの農場は以下；①察北管理区は 2 万人の人口、2 つの郷を含み、中央の農業部の管理下にあった。経済発展が急速に進んでいる。②沽源管理区は人口 8000 人。③康保牧場は人口 2600 人で、面積 17 万ムー[1]。もとは軍馬を供給していた。1953 年以降に成立し、職員労働者は 600 人。調査対象のなかでは旧来の牧場の形態を一番残している。つまり発展が遅れている牧場。④御道口牧場は人口 4000 人　150 万ムーの土地がある。もとは熱河省の農場で、県級行政単位である。⑤魚儿山牧場は 900 人、10 万ムーの面積がある。承徳市農業局の管理にあった[2]。

参考表　察北牧場と沽源牧場の規模（2005 年の数値）

	職員労働者数（人）	耕地面積　ha	生産額　万元
察北牧場	1283	5851	17064（農業 9143、工業 5341）
沽源牧場	1991	4101	8955（農業 4684、工業 2144）

出所：『中国農墾統計年鑑 2006 年』p. 80 より

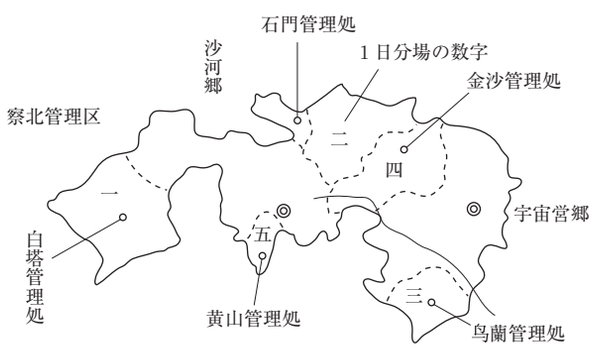
第二節　産業発展をとげる察北牧場

低い丘陵地帯である。張家口から北へ 84 キロ、北京から 280 キロ離れている。九連城の南、張北のさらに北に位置する。察北管理局は二台鎮の北隣に位置し、牧場総部は白塔から交通の便利な中央部南の黄山管理処に移された後、管理区政府はこのすぐ北に大きな政府庁舎を建設し、その事務所も移転したばかりである。宇宙営郷と沙溝郷もこの管理区の行政区画に含まれる。

察北管理局の概況について少し説明する。察北は 1949 年に河北国営牧場としてソ連の援助で中国の 2 つの模範農牧場のひとつとしてつくられ、中央の農業部に所属した。察北牧場と呼ばれ、全国でも有名な軍馬場である。2003 年 8 月に現在の管理区となり、地方行政組織のひとつとして編成され、張家口市現代農業高新技術示範区となった。国有地は多く、機械化が進んでいる。農業機械は 2189 台、そのうち大型トラクターは 22 台ある。大型のスプリンクラーも 392 台。乳業とジャガイモ生産で産業化が進んでいる。生態系旅行資源が豊富で、風力発電と太陽発電の潜在力がある。

5 つの管理処がある。かつての国営牧場の分場が現在の管理処にあたる。また管理区には管理局が置かれ、行政レベルでは県級に相当する。上半期の全区 GDP は 4 億 1700 万元。同年比で 37.8% 増。工業生産は 9.1 億元。財政収入は 5980 万元。飼育されているのは牛が圧倒的に多い。個人の牛を含むが全体で 2 万頭の牛が飼われている。羊や馬は個人で所有している農家もあるがごく少数。

地図 3　察北管理区



ここは 1400 メートルの高地にあり、総面積 373 平方キロ。耕地は 8 万 7 千ムー[1]。草地 23 万 5 千ムー。林は 21 万 6 千ムー。沙溝郷（最近鎮に昇格）7000 人と宇宙営郷 6000 人を含む。総人口 3 万人であるが常住人口 2 万人、そのうち 1 万人以下が就業人口。流入労働人口が約 1 万人である。就業先は工業が主で、牛乳加工、ジャガイモ・燕麦加工、牛乳加工とジャガイモ、燕麦、飼料用牧草の 4 大産業に特色があり、石炭、風力発電などエネルギー産業も発達している。区内の工商業企業は 38、個人経営

1）ムー（亩）は約 6.6 a の面積。
2）この南に豊寧満族自治県孤石牧場、770 人がある。もとは北京軍区の牧場である。12 万ムーの土地面積がある。

者は560。区内には28万5千ムーの国有地がある。建設用地が多く、耕地も集中している。乳牛は50,000頭、周囲の地区で50万頭が飼われている。そのため張家口金農生物科技有限会社が1億2千万元を投資して年産10万tの生物有機肥料プロジェクトを完成。内蒙古蒙牛や青島誕元などの大企業も投資して4つの企業が工場を建て生産している。日産牛乳生産は1千t、察北ではまた2つの近代的牧場が作られ、ひとつは3万頭、もうひとつは5千頭の規模をほこる。北方最大の基地であるが、とくに牛舎単体としては世界最大規模で15736平方メートル、1600頭の乳牛を収容するという。またすでに牛羊肉加工企業も2社が建設しており、察北を中心に半径250キロの乳業経済圏が形成されようとしている。[1)]

ジャガイモはこの地域の特産物で、加工生産高は30万t。また高原野菜栽培も盛んである。白菜、大根、西蘭花、などがある。全国でも有数の草原をもち林と草地は79%をしめる。

2006年に新庁舎を建てた。5つの管理処には5−6人の政府職員、現在の中心鎮となる黄山管理処の職員は15人。郷には10−20人、鎮では30人ほどの職員が働く。合計で行政職員200人ほどである。財政収入は6千万元。この新庁舎には2千万元投資されている。財政が豊かな状況がわかるが、第一次産業の農牧業に期待されてはいない。農家は月2千元以下は税金を納めないので農家で納めるひとはいない。財政収入の来源は工業、つぎに商業など第三次産業と不動産業である。庁舎前の文化広場には多くのアパート群が立ち並び200個ほどがすでに売れて2分の1売却契約済みという。値段は100平方メートルで12万元ほどである。こうした不動産開発業者からは総売上の 3％から 4％が税金として納められ管理区の税収の一部になる。沿海部の農場などでも見られた経済発展を続ける同じ状況をこの牧場にも見ることができる。発展の原動力は非農業の外部からの投資による開発であった。もちろん牧場の有する広い国有地の存在と国営牧場時代の人的資源が基礎にある。

第三節　塞北管理局（沽源牧場）

管理区は4つの管理処に分かれる。管理区の北側の東西30キロほどにわたり内蒙古との境界がある。南北は10キロほどが管理区域で、南に飛び地の沙梁子管理処がある。面積は267平方キロである。南は沽源県と接する。農民は1千人、2百人の事業部門職員、行政管理職員は20人ほどである。392人の労働力と8人の幹部、退職者は168人である。周辺から数千人の流動人口がこの管理区内へ働きに来ており、時期は7−8月の収穫期などに集中する。2003年の編成変更で現在の地方への行政移管となった。石炭鉱山があり、工場や、機械化された畑作地帯と豊かな牧畜地帯がある。楡樹溝管理処が中心で、そこに小鎮があり、塞北管理局が置かれる。蓄

地図4　塞北管理局＝沽源牧場4つの分場（管理処）

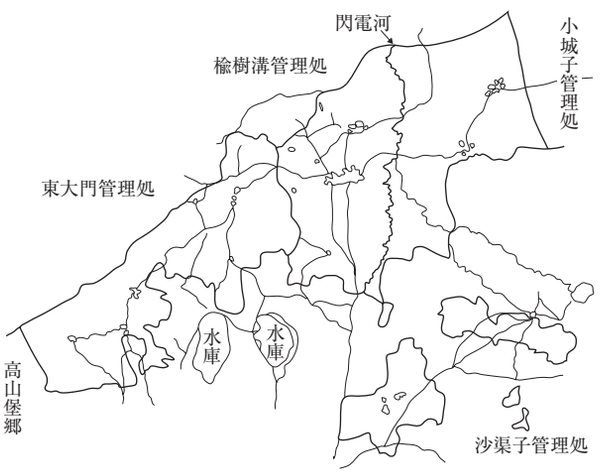
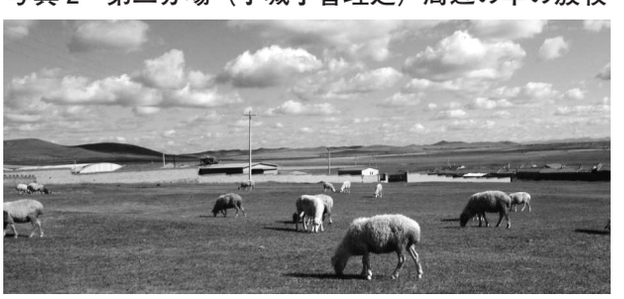


写真2　第三分場（小城子管理処）周辺の羊の放牧



出所：筆者撮影（2010.9.17）

写真3　第三分場近くの丘陵

山のふもとの平原は畑作地帯になっている。そのさらに高い位置にある小高い丘の上では放牧している羊が見える。

出所：筆者撮影（2010.9.17）

1）畜産業の発展は非常に速く、河北省全体の農墾局の統計数値でみると、2005年の数値で乳牛7万3千頭で牛乳生産量では日産1800トンの生産能力があり、生産20万トンの生産量となる。2001年には9.9万トンであった。（前出『中国農墾統計年鑑2006年』p. 322）

業では4つの乳業会社がある。そのひとつは1200人が働く大規模なものである。

第三管理処＝小城子管理処を例にやや詳しくみる。人口1600人、その30%の480人が労働力である。ここはかつての牧場の第三分場である。10万ムーの畑がある。2機ある風力発電は2008年に建設された。高原なので小麦畑はなく、燕麦の畑がひろがる。一時期羊はほとんど飼われなかったが羊はコストが安いので家庭農場で飼われ、この分場では飼育されている羊は計1000頭にのぼる。会社経営で400頭の牛を飼育している会社もある。他に600以上の牛舎があり、そこで200人が働く。この第三分場では農家全体で牛は2万頭もいる。農家は平均で2万元の所得水準にある。油麦農家では1万元にもならないので、バイトに出ることになる。56000ムーの畑で主作物は飼料用のとうもろこし、油麦、つぎに燕麦そしてジャガイモを生産する。ジャガイモ加工工場で加工して出荷する。周辺からアルバイト農民が働きにやって来る。日当は一日80元から90元であるが、150元を超える人もいる。ジャガイモ加工会社は3つあり、2–3千人の臨時工が働く、5–6月に仕事は集中するが、8月の収穫期にもアルバイト農民は多くなる。

第四節　産業化の遅れる康保牧場

牧場は内蒙古との境の最北端にある。人口規模や面積は小さく、塞北管理局の牧場規模の三分の一ほどである。

康保牧場は600人の職員労働者、75人の管理工作員、人口は2600人。農民が平均3–5頭の牛を飼っているので全体では6万頭以上を飼育している。企業経営で60–200頭を飼う場合もあり、牛舎には300頭のやや大規模牛舎もある。

建設会社は華亜達建築会社の一社のみ、独立経営であるが、牧場の付属会社である。ほかに鉛鉱山がある。かつての軍馬生産基地であったが、その面影はなく、馬は50頭ほどしかいない。機械化が進み、役蓄としての馬も必要なくなったのである。1953年に牧場が作られた当初は軍馬の生産を主とする牧場であったが、1976年に管理を市に移した。この76年の改革が一番大きな影響と変化をもたらした。農産物の生産としては4万ムーの油麦[2)]の畑がある。財政収支は400万元である。

牧場の管轄区域は全体で117万平方キロ。北15キロに内蒙古自治区との境界があり、丘陵地帯が続く。上水道は井戸を掘って供給され水質はよく、直接水が飲める。

写真1　康保牧場総部の建物

出所：筆者撮影（2010.9.17）

農場には写真にみるようにいたるところに風力発電の風車や携帯電話会社「中国移動」の鉄塔アンテナが沢山建っている。しかし、農場には土地使用料収入などの恩恵は一切ない。道路建設などの社会的負担がある一方で新たな収入源はなく、投資のための資金確保が課題になっている。

第三章　牧場の改革と現状

2003年からの改革は大きな転換点であった。牧場のもつ社会的機能を分離して行政組織に委ね、牧場は農墾局の系統から離れて独立経営となる。省政府から市政府へ財政支出され、その下部の県レベル、乃至はその下の行政組織である牧場（名称は各地域によって異なる）に社会事業のための費用、例えば小中学校の教育のための費用が渡されるが、一方で企業体として、これまでの生産活動などによる収入を上級機関に納めるのではなく牧場が使えるようになる。また政府財政から、改革進行中に必要となる資金の補助もある。このようにして独立経営単位に改変させる改革が進行している。

2003年以降は牧場の構成員も身分を変更させていく。それまでの公務員給与を支払われることはなく、企業として存続するので公務員の身分はなくなるということ。つまり現在はなお暫定的な性格もあろうが、財政から公務員給与が支払われるのではなく、これまでの上納金を企業として財政から必要経費の一部を受け取って、後に企業の従業員に支払われる（牧場の党幹部の給与と行政幹部は別として）。曾て国営農場は等しく給与表によって給与が支払われた。現在はこの行政組織の幹部すなわち公務員の

2）油麦は「莜麦」と書くが、裸燕麦ともいわれ、寒さや干燥に強く、華北地方で「油麦」西北では「玉麦」と呼ばれる。モンゴルや山西では人々の常食物。

数（かつての退職者は年金を貰うが）は少なく、牧場企業としての独自の経営によるわずかの収入と多くは家庭経営になっている各個別の農家の収入で牧場の一般農民の生活は成り立っている。各農家は三田制という3つの収入源としての土地がある：　①口糧といって各家庭の構成員あたりに等しく牧場から分配される土地、②身分田と言って羊を飼っている農家はこれがないが、農牧業の業態によって割り当てられる土地、③競争部分であり、市場価格で決められる。牧場から借り受ける土地。1ムー当たり40元–50元、高いところは300元で請け負う。

牧場独自の収入としては以下の3つに分かれる。上述した競争的請負地からの収入部分が大きい。

a)　耕地から得るもので。いわゆる請負による収入。

b)　畜牧業から得るもので、草原はやや価格は低く、1ムー当たり1元から10元と幅がある。良質の畑や草地は請負で経営されているところが多く、請負地を柵などで囲っている。また牧場では、土地の回復のために遊休地をつくり管理している。すべての土地を請負わせるのではなく、公的な共有の草原もある。

c)　林業から得る収入もある。1年間に2000万元、林業部から配分される。

また税金は乳業、第三次産業、生態農業（6年以降税金がかかる）から多くを得ている。しかし税金部分については行政組織としての牧場に属する。

河北省の牧場は経営体としての牧場か、行政としての牧場か、二重性格を持っていて、現在も改革が進行中という事情にあるようだ。

しかし、河北省の農場は全体で40億元の収入であるからひとり当り1万元の収入となり、この間の牧場改革が成功していると評価される。他の地域の農場の状況とはやや趣を異にするようである。

小括

国営農場の史的考察からはじめた中国河北省の国有農場の現状調査・分析は一区切りをつけた。かつての歴史的役割を終え、河北省の農牧場は基本的に一般行政組織のなかに再編されつつあり、産業化に成功した多くの開発区（管理区）では地の利を生かして経済的にも発展が著しい。一般の農村の中の農業にだけ職員労働者が従事する場合には発展があまり芳しくなく、工業化あるいは産業化の投資が可能な場合に農場の発展、都市建設と生活サービス向上にも寄与するところ大である。

中国国有農場は大きな変革期を迎えた。河北省の例を見る限りは、過去の単位社会の性格を変え、行政と企業の分割を軸に牧場本来の生産企業の性格に特化して、行政部分は地方政府に移管され、同一組織が看板を二枚もっていた段階からさらに一歩進んだ改革と発展の段階へ向って改革が進められている。